

ロンサーフ療法について

1. 治療のながれ

治療スケジュール

通常「4週間」を一区切り（1コース）として治療します。

副作用の程度や体調によって治療計画を変更することがあります。

1コース				
5日間	2日間	5日間	2日間	14日間
ロンサーフを服用	休薬	ロンサーフを服用	休薬	休薬

⇒ 2コース、3コースと繰り返していきます。

使用する薬剤と用法

ロンサーフ配合錠	
トリフルリジン	細胞の分裂を抑え抗腫瘍効果があります。
チピラシル	トリフルリジンの抗腫瘍効果を高めます。

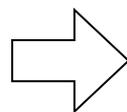
身長体重から決められた用量を1日2回朝夕食後に服用します。

※ ロンサーフ配合錠には15mgと20mgの2種類があり、どちらか一方、または組み合わせて服用します。錠剤の種類は、途中で変更されることがあります。

15mg



20mg



服用するお薬の量に応じてシートにセットします。

血液検査の結果や問診による自覚症状の有無を確認し、化学療法実施の決定を医師が行います。

2. 服用するときの注意点

- ① 服薬期間と休薬期間を必ず守ってください。
- ② 食後1時間以内に服用してください。食欲がないときでも、何か食べてから服用するようにしてください。
- ③ 一緒に服用するといけない薬があります。他の薬を飲む場合は、必ず主治医または薬剤師にロンサーフを服用していることを伝え、確認してください。
- ④ 飲み忘れた時は、飲み忘れた分をとばして（服用せず）次の回から1回分のみを服用してください。**絶対に2回分を一度に飲まないでください。**
- ⑤ 服薬状況を記録し、飲み間違いのないように心がけてください。専用の服薬記録手帳がごさいます。

3. 予想される副作用

- 副作用は、治療内容や個人個人で症状の現れ方や程度が異なります。このため、副作用が出現した場合は、早期に対応できるようにすることが重要です。
- 副作用は、治療開始後すぐに起こる症状や、治療を繰り返すことで起こる症状があります。
- 副作用は「自分でわかる症状」と「血液検査などでわかる症状」があります。

副作用の特徴を理解し、体調に異常を感じた場合はすぐにお知らせください。

▼ 「自分でわかる症状」

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
吐き気・嘔吐・食欲不振 服薬開始後から 7 日目頃 	<ul style="list-style-type: none"> 服薬開始後すぐに起こる場合。 服薬開始から 1 週間ぐらいの間に起こる場合。 服薬開始前から起こる場合。 食事のにおいなどで起こる場合。 これ以外でも変わったことがあった場合は報告してください。 吐き気止めや症状や原因に応じてその他の薬剤を使用します。
下痢 服薬開始後から 7 日目頃 	普段から便通の状態を把握するように心がけてください。 腹痛や、下痢でトイレの回数が多い場合は報告してください。 症状が出現したときは水分補給をこまめに行ってください。 下痢止めや水分補給のための点滴を使用します。
口内炎・歯肉炎 	口の中を清潔に保つように心がけてください。 刺激の強いものや極端に熱いものはなるべく避けてください。 痛みで歯磨きができない場合でも、うがいはしてください。 症状が出現時は、軟膏やうがい薬を使用します。
過敏症 服薬開始直後から 	発疹、発赤、咳、発熱、悪寒、呼吸苦、浮腫など 薬剤や食物などのアレルギーは必ず申し出てください。 少しでもおかしいと感じたときはすぐに申し出てください。 症状出現時は、抗アレルギー剤、ステロイド剤を使用します。 まれに投与後に症状が出現することがあります。
疲労感・倦怠感・発熱 服薬開始後から 7 日目頃 	無理をせず、十分な休息とるようにしてください。 肝機能が影響して症状が出現する事があります。 発熱の症状に応じて解熱剤を使います。
間質性肺炎	空咳、息切れ、発熱など 症状を感じたら受診し、適切な治療を受けてください。

▼「検査でわかる症状」



定期的に検査を行い、問題ないことを確認していきます。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
<p>白血球・好中球減少</p> 	<p>感染症にかかりやすくなります。感染予防を心がけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅時に手洗い、うがいを行う。 ・歯みがきは口の中を傷つけないように気をつける。 ・風邪など感染症にかかっている人に近付かない。 <p>風邪などの症状がある場合は早めに受診するようにしてください。 減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。</p> 
<p>赤血球減少</p> 	<p>めまい、倦怠感、息切れなど貧血時に見られる症状が出現します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。 ・減少の程度では、輸血することがあります。
<p>血小板減少</p> 	<p>出血しやすくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我や内出血（打ち身などによる）に注意してください ・覚えのない内出血や血便が見られたときは報告してください ・減少の程度に応じて輸血することがあります
<p>腎機能 肝機能 電解質 などの項目も問題ないか確認していきます</p>	

ここに書いてある以外の副作用が現れるかもしれません。普段と何か違うな、おかしいなと感じたときは医師、薬剤師、看護師に報告してください。

治療を受けているときは、様々な不安や疑問を感じると思います。
そのようなときは主治医、薬剤師または看護師にお気軽に相談してください。



鹿児島市医師会病院 化学療法委員会
099-254-1125